

I 自然環境

平塚市は南北に 9.8km、海岸線では 11km にのびるが、東西に 3.5km と比較的小面積にまとまり相模湾に面して位置している。西に大磯町、二宮町、小田原市と続き湘西地区の東端をなし、さらに東に茅ヶ崎市、藤沢市、鎌倉市と続き湘南海岸の中央を占めている。北には伊勢原市、厚木市と続き丹沢山塊に連なっている。

平塚市は自然植生がきわめて少なく、大部分が宅地や耕作地として利用され、西部丘陵地、北部台地にわずかに二次林や植林がみられる。自然植生は相模湾沿いの砂丘や相模川、金目川、花水川ぞいの河辺など厳しい環境下に草原の形で残されている。さらに北部や西部の古い屋敷林などにもみられる。あるいは平塚市中央部に位置する八幡神社をはじめとする平塚市内の神社に、社叢林の形でわずかに自然に近い林分が残されている。

これらの植生を理解するには、それをとりまく自然環境との関連が考えられる。

1. 気 候

平塚市は、神奈川県南部沿岸部に位置し、冬は暖かく夏は涼しい表日本の東海気候区に属している。平塚市寺田縄金田気象観測所による気象データでは年平均気温 15.0 度、年平均最高気温 20.0 度、年平均最低気温 10.2 度と年較差が少なく温暖多雨と海洋性気候の特色が著しい。吉良 (1949) による温量指数*は 120.3°、寒さの指数** -1.1° で常緑広葉樹林域に含まれる。

Tab.1 気候年表 (平塚市出縄金田, 1966~1970)
Meteorologische Daten für die Stadt Hiratsuka (Mittlere Angaben für 1966~1970
von Kaneda in der Stadt Hiratsuka)

月別 Monat	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年
種別 Angabe	Jan.	Febr.	März	April	Mai	Juni	Juli	Aug.	Sept.	Okt.	Nov.	Dez.	
気温 (°C) Lufttemperatur													
月平均 Mittel	4.0	4.9	8.0	13.5	18.2	21.3	25.1	26.3	22.9	16.9	12.0	6.6	15.0
最高気温 Maximum	10.4	10.7	13.4	18.6	23.4	25.5	28.8	30.9	26.9	21.8	17.4	12.7	20.0
最低気温 Minimum	-2.5	-0.9	2.3	8.3	12.9	17.1	21.5	25.5	19.0	11.9	6.5	0.4	10.2
降水量 (mm) Niederschlag	59	78	116	109	170	281	180	169	140	135	77	74	1588

* 温量指数 (あたたかさの指数) : 吉良 (1949) の考案した積算温度の一つで、植物の生育温度を日平均気温 5°C 以上とみなし、月平均 5°C 以上の月について各月の平均気温から 5°C をひいて 1 年間合計した値。月・°C (m. d.; month degree) で示す。常緑広葉樹林域は 85~180°C とされる。

** 寒さの指数 : 積算温度の一つで月平均気温 5°C 以下の月について、5°C からの開きをマイナスで表して合計したもの。常緑広葉樹林域は -10~-15°C が限界とされる。

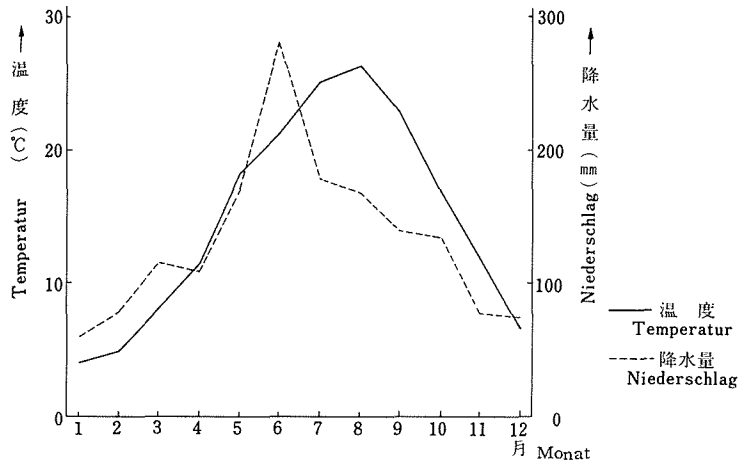


Fig. 1 平塚市における温度・降水量のグラフ
Klimogram der Stadt Hiratsuka

年間降水量は1588mmで月別の降水量をみると冬季はもっとも少なく1月で59mmが記録されている。5・6月の梅雨期では、降水量の年間最大値は、6月に281mmが記録されている。7月以降10月までは雷雨や台風の影響で降水量は比較的多く、11月以降になると晴天日数が多くなり降水量は減少している。

2. 地形・地質

平塚市は丘陵と台地にかこまれ、相模平野の中心を流れる相模川の西側に位置している。さらに地形的には大きく砂丘、河川、沖積低地、洪積台地、丘陵地に分けられる。

相模湾に面した湘南海岸はよく砂丘が発達しており、相模川河口には砂州がみられる。海岸砂丘は海岸線に平行に幾列かの砂丘列を形成しており、凹状地は后背湿地となっているが、現在ではほとんどが造成され宅地化されている。平塚市の市街地の大部分は安定した砂丘上に発達した集落である。大磯町の海岸線では一部海岸段丘がみとめられるが、平塚市の海岸線では埋没段丘となっており、第4紀にかけての海進海退の様子がうかがえる（羽島・柴崎 1974）。

相模平野は相模川を始めとして大小の河川が相模湾に注ぎこみ、河床には中流から上流にかけて礫層、下流には砂泥層が分布している。それらの河川は砂層からなる自然堤防が発達しており、護岸工事のほどこされる以前はかなりの氾濫がくり返されたものと考えられる。平塚市の2分の1以上の面積を占める相模川及び金目川によって形成された沖積平野は、その形質によってふたつの形態に分けられる。ひとつは砂質に富む堆積層で、褐色低地土壌、粗粒褐色低地土壌などがあげられる。これらの土壌は、氾濫源からはなれた安定した所に特に発達している。コアを採集すると、深いところで90mの堆積層があり、主に泥層、砂層、シルト層からなっている（平塚市農業総合研究所 1972）。

ひとつは氾濫源である流水域に近く、河口付近は特に広く分布するもので灰褐色あるいは灰色土層よりなる細粒灰色低地土壌や灰色低地土壌である。これらの土壌は粒子が細かく粘質であるため透水性が悪く水田等に長い期間利用されてきたところではグライ土壌に変化している。

平塚市西部に位置する北金目洪積台地は、北側の大山山地と南側の大磯丘陵にはさまれて発達している。上部洪積世の末末吉層と東京浮石層を箱根火山軽石層が不整合に被っており、表層は黒ボク及び細粒カッ色土と上部洪積世ローム土である（羽島，柴崎 1971）。

大磯丘陵地は平塚の南面に位置し、層序は第3系早田砂層、吉沢層、軽石堆積物及びローム層により形成されている。早田砂層はその層厚、層相から海進期の堆積物で海洋性のものとされている。谷は一般に若く、その斜面ではローム層がなくなり、砂層、礫層が露頭を表わしている。岩石層が少ない為、水による浸蝕に弱く、不安定な地形を呈している。一部には海岸段丘の発達

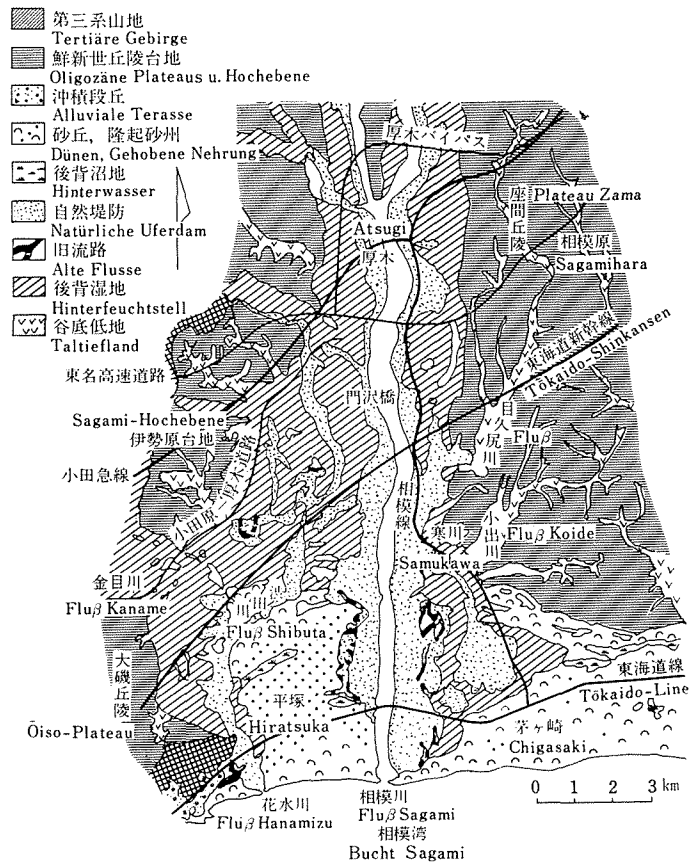


Fig. 2 海岸沖積平野の地形分類図。神奈川県相模川下流平野の例（森山による）（羽島，柴崎 1971）

Geomorphologische Gliederung der Umgebung der Stadt Hiratsuka (nach Hashima und Shibazaki 1971).

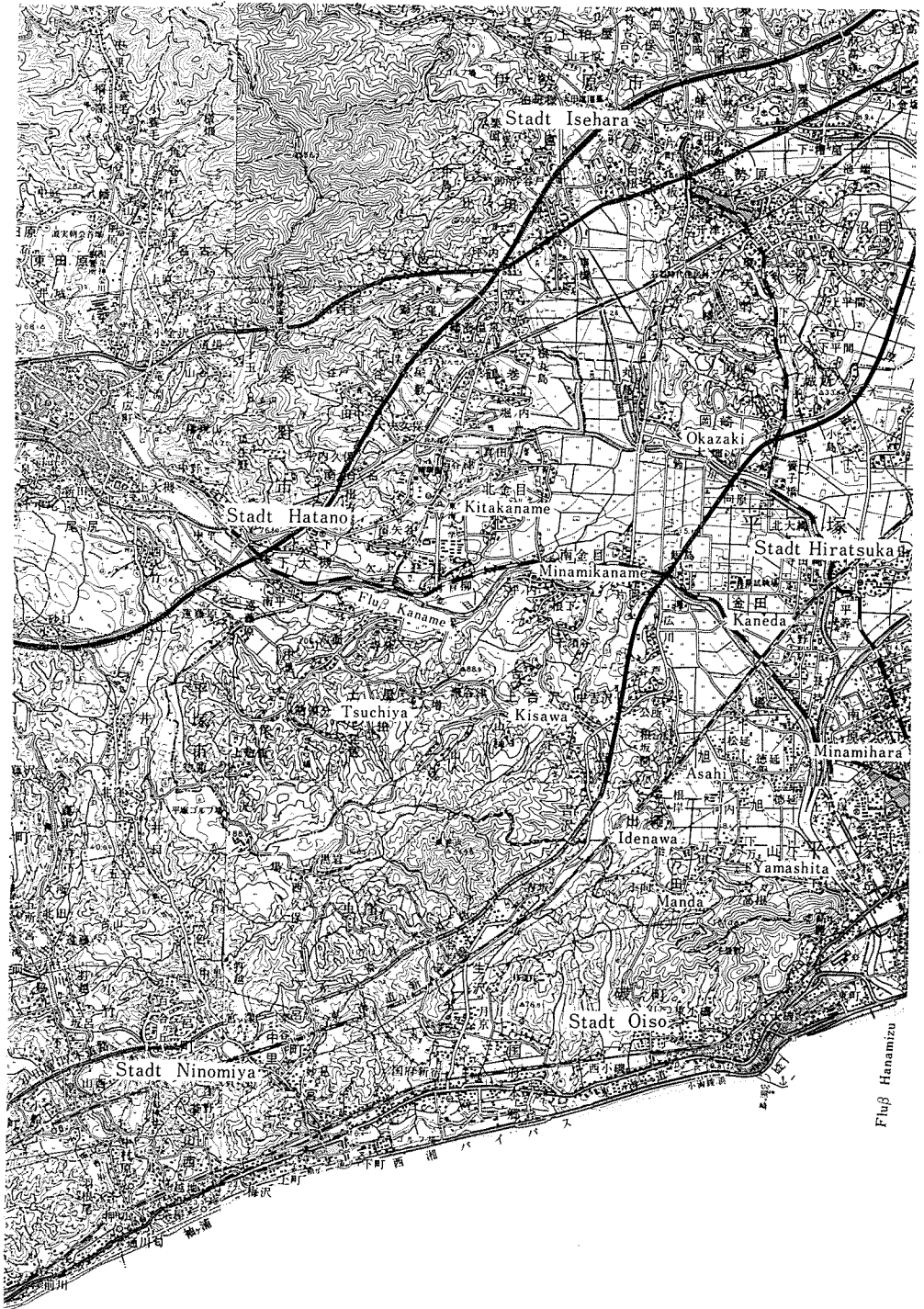
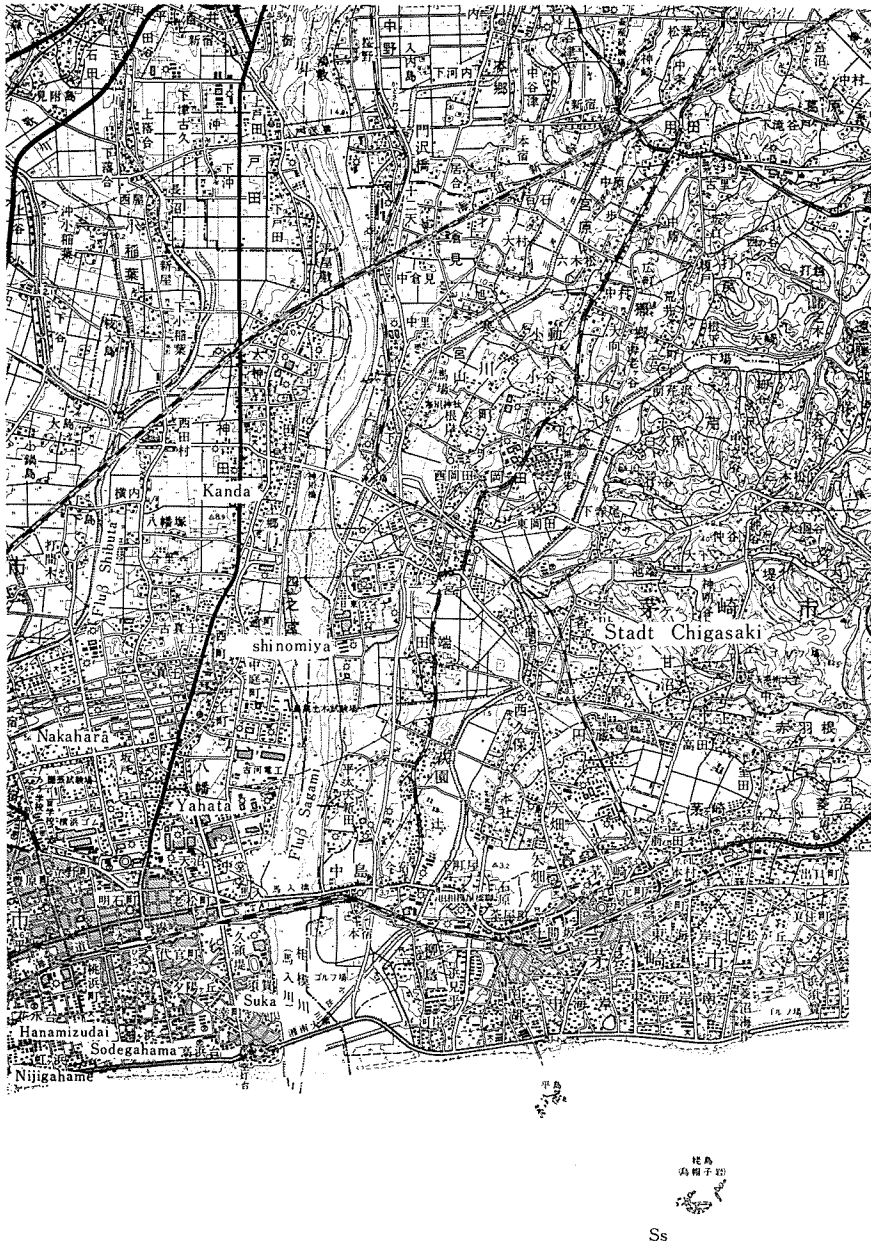


Fig. 3 調査地域概観図
Übersichtskarte der Gesamten



Areale Stadt Hiratsuka (Untersuchungsgebiet)

がみられる (石塚 1953)。

丘陵部の谷に発達する若い沖積地は、主に水田、果樹園等に利用され、丘陵部は黒ボク及びカッ色ローム土で茶畑、みかん畑、畑及び苗圃に利用されている。